平成29年（2017）12月４日　月曜日

この人に聞く

新教育総合研究会社長
福盛　訓之社長

福盛訓之・新教育総合研究会社長は今年7月、神奈川県のパシフィコ横浜で開催された国内外から約５千名が集う「第25回盛和塾世界大会」で『経営体験発表最優秀賞』を受賞した。

同社は、個別指導キャンパスの塾名で約280教室の個別指導塾を運営している。

稲盛和夫・京セラ名誉会長の私塾「盛和塾」は塾生の中から、しっかりとその経営解決法をつかみ、社員との理念共有に注力し、大きく業績を伸ばしている経営者を顕彰している。福盛氏は第21回稲盛経営者賞（第１位）も受賞しており、今回盛和塾史上初となる２度目の表彰を受けた。

「第28回盛和塾世界大会」で
経営体験発表最優秀賞受賞
教育格差の是正と教育水準の底上げ

――受賞の喜びと感想をあらためてお聞かせ下さい。

福盛　私は19歳の時に起業して一生懸命まじめに教育に打ち込んできました。でも経営に関しては未熟であって、大変な苦労と困難があり、そんな私が人としてリーダーとして目指すべき方向が見えたのが稲盛塾長の教えでした。

今回、自らの経験を話す機会、ライブで約5千人に聞いていただける機会はめったにないことで、緊張よりも遠足前の小学生のようなワクワクした楽しい気持ちがそれを上回りました。

――個別指導キャンパス開業のきっかけは。

福盛　当時、校内暴力全盛時、私が無気力な中学校生活ではいけないと感じ、自ら町の個人塾に入塾したところ「よく分かり面白くほめてくれる」指導でした。

この原体験から学校が機能不全でも塾が良ければ救われる子供がいると考え、大学生時に塾講師になりました。やる気、集中力を維持させるためにどのような話し方が効果的なのか、人気タレントや芸人、落語家の話術まで掘り下げ研究しました。その結果、3千名の講師の中で、アンケートで「授業が良く分かる、信頼できる」などの項目で1位となり担当した生徒のほとんどが大幅に成績向上しました。

そんな中、大手進学塾は、授業料がとても高い割に必ずしも成績が上がらないことに私は疑問を持っていました。

もっと良い塾をつくりたい、つくれるはずだ、と考え、1993（平成5）年、19歳の大学在学中に誰でも通いやすい低価格で、どんな子でも成績を伸ばしてあげたい一心から開塾しました。絶対に失敗するといった知人たちからの冷ややかな目がありましたが私は迷いがありませんでした。

――その後は。

福盛　普通のサラリーマンの家庭に生まれた私はお金もコネも何もありません。アルバイトで貯めた50万円を元手に裏路地の6坪程度の物件を借り廃業するそろばん教室から机と椅子の無償提供を受けました。また近所の職人が私の教育にかける熱意に打たれ材料費のみで内装施工してもらい開業にこぎつけました。

最初に入塾したのは、他の塾では入塾テストに合格できなかった子供たちでした。彼らは勉強に対する意欲と自信を失っていました。

そこで、まず生徒に学習意欲を出させるためにできる成功体験をさせ「この先生の言うことなら聞いてみよう」という信頼関係をつくりました。やがて、一生懸命面倒をみてくれるということが評判になり開塾して3年後には口コミで2百名の生徒が通うようになりました。

――労働時間が極めて多い塾業界は他業種と比べ突出して離職率が高い業種です。

福盛　高品質な授業を提供するには生徒一人ひとりと向き合い、長期的できめ細かな学習計画を立てる必要があるため、生徒とのコミュニケーションを取る時間は欠かせません。

社員のベクトルをそろえるために新入社員歓迎会や暑気払い、社員旅行、運動会、忘年会も全社員参加で毎年行い、自らが直接社員に話をすることに重きを置いて実施しました。

当社は自動システム導入で、各家庭への毎月の授業料請求や講師への給与計算などの経理業務、生徒個人に対応した煩雑な時間割作成も自動化し、全社で年間約2万6400時間の労働時間を短縮、昨年ついに社員の残業ゼロを達成することができました。

社員が生き生きとして働くようになってからは、顧客満足度も大幅に上がり、退塾する生徒が激減して売り上げは大幅に拡大しました。また卒業した生徒が社会で活躍している報告を聞くたび、社員育成の重要さや、この仕事へのやりがいと社会的意義を感じます。

――盛和塾で学んだことは。

福盛　経営に関して、いろいろなことを学びましたが、その中で最も深く「これだ」と思えたものが、稲盛塾長の「公明正大で大義名分の高い目標を立てる」でした。2012（平成24）年、目標を明文化しました。①教育を通じて顧客、社員を幸せにします②社員の心と生活をともに豊かにします③事業を通じて全人幸福社会実現に寄与します④三方よしの精神（売り手よし、買い手よし、世間よし）を大切にします、などです。

――今後の抱負をお聞かせ下さい。

福盛　低価格で高品質の個別指導塾を広げていくことを通じて、日本が抱える教育格差の是正、教育水準の底上げに寄与することが、当社の存在意義だと考えています。具体的には、10年以内に個別指導塾において指導品質も事業規模も日本一を目指します。

福盛訓之氏（ふくもり・としゆき）**主な受賞歴**
「第33回優秀経営者顕彰」日刊工業新聞社賞受賞
東久邇宮文化褒賞受賞（教育功労）
第21回稲盛経営者賞（第1位）受賞
第9回経営合理化大賞フジサンケイビジネスアイ賞受賞
高円宮名誉総裁章受章